

第61回宮城県母親大会

戦争NO! 9条守ろう! いのち輝く世界に

日時▶2022年12月11日(日) 13:00~15:30

場所▶フォレスト仙台 大ホール

記念講演▶「平和は私たちの手で創る」

国際ジャーナリスト(元朝日新聞記者)伊藤 千尋さん

県内各地のサテライト会場にてWeb同時開催(Zoom)

参加協力券 800円(会場参加・オンライン参加)

主催/第61回宮城県母親大会実行委員会・泉区母親大会実行委員会

TEL 022-219-2693 TEL 090-4314-9030(泉実行委・菅井)

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所

宮城県民主医療機関連合会

仙台市青葉区木町通1-8-18

〒980-0801 田村ビル5F

TEL 022-265-2601

FAX 022-263-8266

e-mail:dai@miyagi-min.com

発行人 坂田 匠

1日・15日 月2回発行 1部 50円



SDHの説明を受ける参加者



医師ブースのトリアージ体験



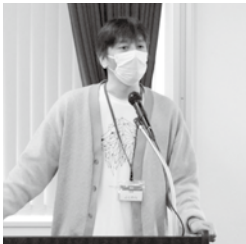
看護師ブースで点滴を体験

10月10日、TKPガーデンシティ仙台で、「第2回医療・介護のお仕事体験フェア」を開催し、宮城県内の中学生と高校生57名が参加しました。前回と同様、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師、リハビリ、介護福祉士の7つの職種に、歯科が加わり、合計8ブースで職種の紹介と体験を行いました。オープニングでは、坂総合病院リハビリテーション科科長、藤原大医師が、「チーム医療（多職種連携）について」と題して講演、1つの職種で

支えることが難しいことや、専門性をもって治療することの大切さを、医療をテーマにしたドラマに触れながら話しました。また、健康は社会的影響を受けていることなど、SDH（健康の社会的決定要因）についても説明。最後に、体験を楽しんでもう一度と呼びかけました。医師ブースでは、斎藤剛熙医師、松井太瑠日医師、濱野直樹医師らが、トリアージの説明をしました。体験者は、医師どうしの連携の大切さや、多くの工程を短時間で対応する医師に驚きを感じ

ていました。看護師ブースでは、感染予防ガウンを着用し、点滴の体験を行いました。点滴に初めて触れた体験者は、点滴にチューブを真つすぐ入れるコツを教えられる、とても喜んでいました。薬剤師ブースでは、薬の取り扱いを学び、調剤の体験をしました。「実際に触れてみたことで実感がわき、現役の薬剤師の方から話を聞けてよかった」と話していました。放射線技師ブースでは、レントゲンやCT画像などの説明に、「CTの構造が分かり貴重な話を聞けてよかった」の声。検査技師ブースでは、検査用ガウンを着用して、インフルエンザの検査キ

ットで検査体験。「検査技師の役割の重要性が分かった」と驚いていました。リハビリブースでは、装具や自助具をつけて、患者体験をしました。理学療法士の重要性を知り、進路選択にとても参考になった」とのこと。介護福祉士ブースでは、



藤原大医師

多職種が協力して “お仕事体験”



介護福祉士ブースで高齢者の体験

はまた高校一年生ですが、早くから色々体験させて、本人がやりたいことを選んでほしいです。コロナ禍で体験が少なく中、このようなイベントがあるとても助かりました」と話されました。コロナの影響で、生徒も家族の方も職業体験の機会が少なく困っているようです。参加者は、8つの職種から3つを選択し、1ブース30分の体験をしました。体験終了後、会場をあとにする皆さんの、満足した表情が印象的でした。職業選択に悩む生徒や家族に、多職種が協力して体験の機会を提供している、とても素晴らしい企画だと感じました。

装具を身につけて「高齢者」の体験を行いました。介護される側の体験は初めてという参加者は、高齢者の苦勞を感じたようです。歯科ブースでは、うずらの卵で歯石とりとレジンの歯科治療を体験しました。普段できない歯石取りを楽しそうに体験していました。体験者の保護者は、「私は養護施設の看護師です。自分も興味があったので参加しました。子ども

10月1日、フォレスト仙台を会場に4病院再編統合移転問題をめぐり学習会を行いました。宮城県民医連も構成団体である「地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会」が主催し、「東北労災病院を守る会」の後援もいただきました。会場に69名、オンラインで31名が参加しました。特別講演は、小泉潤氏（名取メンタルヘルス協会理事長）が、「精神医療センター移転反対！移転に伴う実害を考える」のテーマで講演。精神医療センタ



今田隆一医師と参加者

院の再編統合移転が進められる問題を、病院経営の現状と課題、一般医療機能の充実の重要性に触れながら指摘し、病院と地域の関係の重さ、急性期病床が減るだけで慢性期も回復期もベッドは増えない本質を話されました。特別講演は、小泉潤氏（名取メンタルヘルス協会理事長）が、「精神医療センター移転反対！移転に伴う実害を考える」のテーマで講演。精神医療センタ

県民が望まない4病院再編

坂総合病院 事務 鹿島 進

1の前身である名取病院以来、地域の人々と作り上げてきた地域ぐるみの

精神医療の実績、作業所やグループホーム、訪問看護とも連携して築いた地域医療の財産が移転によって失われる危機感を訴えました。また、精神医療センターは老朽化が進んでおり、同じ名取市内にあるがんセンター西側に移転し、がんセンターも含めた充実を提案されました。講演後の質疑応答では、患者や当事者のみなさんからの率直な声が出され、宮城県のすすめる4病院再編がいかに県民の願いに反するものか、浮き彫りとなりました。寄せられた感想からも、「集いをもっと重ねていく必要性をリアルに感じる」ことができました。政治の一方的な進め方で、当事者がすべて入っていないのは問題」「当事者や地域住民に情報を出さず、意見も聞かずに独断での進め方。選挙公約で信任を得た」とは言えない。将来像も示さず秘密裏に具体化することは許されない」「労災病院の患者で担当医から、〇月までしか診てあげられない」と言われ途方にくれている人がある」など多くの問題が伝わってきます。

引き続き、「4病院再編統合をやめていただきたい」との意思を示し署名活動に取り組みとともに、今回のような学習会も企画して、何が問題なのかを知らせていくことが大切だと思います。なお、資料などお問い合わせは、宮城県社会保険推進協議会（社保協）で対応しています。

ロシアのウクライナ侵攻が泥沼化している昨今、物価の高騰は私たちの生活にも大きな影を落としております。さらにはそんな中で北朝鮮のミサイル発射が頻発。暗い話題のニュースが多い中、明るいニュースを一つ。▼昨年3月、大崎市三本木にあった県北で唯一のボウリング場が営業を終了し、県北はここ1年半、ボウリング場の空白地帯となっておりました。しかしながら、今年9月に大崎市に待望の新しいボウリング場がオープンしました。国内2例目のピン吊り下げ式のボウリング場です。▼ボウリングは、一見方ロリーを消費しないように見えますが、1ゲームで40〜50円を消費します。3ゲーム投

げると120〜150円です。ウォーキング30分は体重にもよりますが80〜100kcalです。ボウリングをプレイした方が消費するカロリーは多くなります。▼また、ボウリングでは、重いボールを繰り返し投げるという筋肉を使う運動も有酸素運動と一緒に脂肪を燃焼するだけでなく、同時に筋力を増やすこともでき基礎代謝もアップというダイエツト効果も期待できるというわけです。▼ボウリングは、国体種目にもなっている立派なスポーツ。20年前に興味を持ちましたが、今はもっぱら国体選手となった娘の応援。たまには自分も投げてカロリーを消費しなくては。

健康手帳

ロシアのウクライナ侵攻が泥沼化している昨今、物価の高騰は私たちの生活にも大きな影を落としております。さらにはそんな中で北朝鮮のミサイル発射が頻発。暗い話題のニュースが多い中、明るいニュースを一つ。▼昨年3月、大崎市三本木にあった県北で唯一のボウリング場が営業を終了し、県北はここ1年半、ボウリング場の空白地帯となっておりました。しかしながら、今年9月に大崎市に待望の新しいボウリング場がオープンしました。国内2例目のピン吊り下げ式のボウリング場です。▼ボウリングは、一見方ロリーを消費しないように見えますが、1ゲームで40〜50円を消費します。3ゲーム投

連載 145

私の好きな憲法は何条？

私が好きな憲法は、第14条『法の下に平等』です。どんな人も人種や性別、身分などから差別されることは許されない、という内容です。

私は学生の頃、日本に差別が存在しているなんて思いませんでした。それくらい差別は身近にない、というか、私自身がマジョリティの立場であり、無知だったのだと思います。

福祉会に入職し、様々な社会保障の活動に参加学習させていただく機会

田子のまち

大沼 晴与

の中で、世の中にたくさん差別が存在し、どれほど平等に欠けるのかというのを痛感しました。

最近、男女差別やジェンダー、LGBTQについての問題を見聞きすることが増えました。「賃金格差」「男性が働き女性家事をする」「男の子はヒーローが好きで女の子はプリンセスが好き」などは差別や格差を象徴する事柄のほんの一部です。自分が「そんなものか」と思ってきたことや、「そんなものか」とすら思わなかったことが、実は差別や格差によって作られた慣習や思い込みである

ったことを知ると、ただただ恥ずかしい気持ちになります。

差別の問題、ひいては平和の問題について考える時に、「想像力」と「知識」がとても大切だと思っています。自分や自分の大切な人がその立場だったら、と考えることがまずは大きな一歩なのではないでしょうか。そして想像するためには知識が必要です。差別は他人事ではなく、いつでも自分がされ得るもの、または無意識であってもしてしまう側に立ち得るものという自分事として知識を深め、考え続けて

いきなると強く感じています。

様々な国で男女の格差を無くす教育や取り組みが行われ、同性婚が認められるなど大きく流れが変わってきています。世界から遅れをとる「から男女差別やLGBTQの差別をなくそう、ではなく、私たち日本人が日本国憲法の下に私たちの問題として差別の問題を考え、行っていく先として、個々が尊重され、様々な制度を後ろ指刺されることなく必要な人が使い、安心して暮らせる世の中になればいいなと願うばかりです。

「環境過敏症」とは？

県連環境問題を考える会が学習会

厚生協会 事務 佐藤 純生

宮城民医連「環境問題を考える会」は、尚絅学院大学名誉教授の北條祥子氏をお迎えし、10月15

日に学習講演会を開催しました。当日は、31名が会場とオンラインで参加しました。

北條氏は、電磁波が人体に与える影響なども研究しており、その内容が新聞で取り上げられるなど日本での第一人者の一人で、数多くの講演活動を行っています。今回は、日常生活の中にある「環境過敏症とは？」と題して話されました。

「環境過敏症」とは、シックハウス症候群、化学物質過敏症、電磁場過敏症を含めたものを指しています。化学物質過敏症は、合成洗剤などに含まれている合成化学物質が影響して、頭痛・めまい・倦怠感などの症状誘発や、柔軟剤などのニオイによる香害（こうがい）で、健康被害を受けている方もいるとのこと。また、電子機器類から発せ

られる電磁波によって皮膚症状や神経衰弱などをきたした症例や、電磁波が脳内血流量を低下させることなどを分かりやすく説明されました。

これらの過敏症は、知らない間に少しずつ体内に蓄積され、各自の許容量を超えると、症状として現れてくるということだそうです。

「環境過敏症」は認知度が低く、同じ環境にいる他の方は無症状でも、頭痛・めまい・倦怠感などの症状で悩んでいる方もおり、周りの方に理解されず苦しんでいることも話されました。

最後に、個人レベルでもできる治療法・予防法として、日頃から①免疫力を高める（バランスの良い食事、適度な運動、十分な睡眠、ストレス解消）、②症状発現、悪化要因の除外、③体外への

有害物質排出（抗酸化作用、ビタミンの摂取、運動療法など）、④化学物質・電磁場の暴露量の減少、などを中心掛けることが大切と話されました。

大崎金demo 500回

継続10年目の決意

古川民主病院 事務 只桢 斉



デモ行進

「アベ・スガ直系政治を許さない大崎demo 金曜行動」は、今年8月に10周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症拡大により休止する期間があったものの、第500回目の10月14日には、古川民主病院、大崎健康福祉友の会、つばさ薬局古川店などから、合計28名が参加しました。

東日本大震災の津波で被災した福島第一原発事故の悲劇を繰り返さないために、震災翌年より原発ゼロを求める運動が全国で、毎週金曜日に市民運動として始まりました。

この大崎でも2012年8月12日、大崎労連、民医労古川民主病院分会、大崎市福祉友の会の呼びかけで始まり毎週金曜日午後5時30分より「大崎demo 金曜行動」として、大崎市あさひ中央公園で開催してきました。

その後、2015年の安保法制（戦争法）強行採決を許さないたたかいと統合し、「改憲発議と大軍拡をやめろ」「原発の再稼働と廃止」の二つの課題を市民にアピールする集会と行進を行ってきました。

参議院選後、憲法「改正」を掲げる政党が、衆参議院ともに、「改正」案の発議に必要な3分の

2を超えています。アメリカの求めに応じ、安保法制下の自衛隊を9条に位置付ければ、平和国家・日本が覆され「戦争できる国」になってしまうます。また憲法の勝手な解釈で「大軍拡」を進めれば、社会保障制度が圧迫されることは必至です。

世論は憲法改悪や軍備拡大を認めていません。各種世論調査でも明らかです。

国民世論が割れる中で強行された安倍元首相の国葬により、岸田自公政権の支持率は30%を下回っているとの報道もあります。「野党は共闘、市民は共同」の運動を大きくしていくことでしか、今の政治を変えることはできません。

個人的には1000回の行動を目標としていますが、その前に政治を変えなければならぬと決意を新たにしました。

今回初めて参加した、つばさ薬局古川支店の佐藤花香さんは、「民医連

に入職して3年目、まだまだ経験が浅いので、地域活動を通して政治のことなど学んでいきたいと思っています。」と話されました。

原演習場近隣の方々の生活は、いかばかりか計り知れません。出勤時に戦車とすれ違ったことも。ミサイル発射のアラートもあり、子どもの留守番も心配。安心、安全な世界を願って止みません。南光台地域包括支援センター 芳賀明子

冬になり、あたたかい布団から出られなくなる日々がやってきました。いつまでも寝足りず食欲も旺盛で、冬眠前のクマみたいなだなぁと思っています。

古川民主病院 佐藤 鈴

札幌の義父母が宮城の親戚回りをするの、先日仙台に来ました。夫と一緒に親戚を回り、新米を50kgほどいただけてきました。さすが宮城のお米はおいしい！けど、食べ過ぎ注意です!!

下馬みどり保育園 杉井知子



ち食いそば

【問題】上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？（作・野上和彦）

7つのマチガイ



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格あり。応募資格：臨時・パート含む県連職員。締切12月15日。当日消印有効。発表1月1日号。10月1日号答え「ジョコウク（食欲）」、応募総数18件。

当選者：鈴木桂子／長町病院、鈴木登和子／ケアステーションながまら、阿部由美／坂総合病院、加藤千恵子／ケアステーションあゆみ、萩原緑／泉病院（敬称省略）